

英語以外の外国語について

(スペイン語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・ロシア語)

(2006から2009年度入学者に適用)

英語以外の外国語を何のために学ぶか

誰でもパソコンを操って瞬時に世界の情報に接することができるグローバル化の時代にあって、人が互いに理解し合う言葉も多様化せざるをえません。その昔ゲーテは、外国語を知らぬ者は自国語について何も知らぬも同然だ、と言いました。外国語を学ぶということは、単に言葉ばかりでなく、その背後にあるその国・地域の人文地理をも学ぶことであり、ひいてはそれらを通して自国語の持つ社会、政治、文化的背景の理解がより深まるということです。世界のあらゆる地域と容易に交流できる今日、お互いに異文化を理解し、認め合うことがどうしても必要です。そのためにも既習の英語以外にいくつかの外国語を学んでもらいたいものです。

自由な時間が十分にとれる大学の4年間を活用し、諸外国語を学んで海外に出かけてください。百聞は一見にしかず、と言います。まず、実地に見聞を広めることが大事なのです。

履修の際に注意すること

本学では意欲的に外国語を学ぶみなさんのために、英語以外の外国語として、スペイン語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、ロシア語が開講されています。セメスター制(学期制)で、「Ⅰ」「Ⅱ」の順に履修してください。初習外国語ですから、「Ⅰ」がしっかり学修できていなければ、「Ⅱ」を履修することは事実上困難です。「中級」科目については、①「初級AⅠ」「初級AⅡ」を履修して2単位を修得している、②「初級BⅠ」「初級BⅡ」を履修して2単位を修得している、のどちらかの条件を満たさないと履修登録できません。次項にそれぞれの外国語の簡単な紹介と、前期「Ⅰ」と後期「Ⅱ」の授業内容および授業の進め方などが示されています。よく読んだうえで履修してください。また、学部によって履修の方法や必要な単位数が異なりますので、注意してください。

なお、スペイン語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語の各検定試験に合格すると外国語科目等の単位として認定される制度があります。詳しくは、『履修要覧―横浜キャンパス共通―』の「学則および諸規程」にある「各種検定試験合格者の単位認定に関する取扱規程」を参照してください。不明な点は、教務課に問い合わせてください。

1 「スペイン語」について

スペイン語は英語とともに世界でもっとも重要な国際語の一つです。スペインや中南米諸国で話されているだけでなく、アメリカ合衆国でもスペイン語を話す人々が大変増えています。

また、スペイン語は、スペインや中南米諸国の政治・経済、社会、文化について理解するうえで欠かせないだけではなく、これらの諸国と接することによっていわゆる欧米世界とは異なった世界を知ることができ、新しい視野が開けてきます。英語ではなくスペイン語を通じて接するところに大きな意味があります。

新しい言葉を学ぶことは、どんな言語でも簡単ではありませんが、スペイン語の発音は日本人にとってはなじみやすいでしょう。英語のほかにスペイン語を身につければ、将来の可能性も大きく広がります。

●スペイン語初級

スペイン語によるコミュニケーションのための基礎的な文法や文型を学びます。

スペイン語の動詞の形には大きく分けて直説法と接続法の二つがありますが、初級では直説法現在形までを終了します。文法では再帰動詞の活用と用法、比較級まで学びます。

Aは文法中心のクラス、Bは発話・表現、つまり、「話す」「聞く」が中心のクラスです。したがって、初級ではAとBを履修しなければなりません。

●スペイン語中級

中級は、AとBが発話・表現中心のクラス、CとDが文法・講読中心のクラスになります。CとDクラスでは、動詞については原則として直説法過去形から始め、接続法まで終了します。

- ① 語学科目8単位が必修の学生は、発話・表現と文法・講読のクラスをそれぞれ一つずつ履修すること。(すなわち、AまたはBのうち一つと、CまたはDのうち一つの、合計二つを履修すること。)
- ② 語学科目6単位が必修の学生は、発話・表現と文法・講読のクラスのうち一つを履修すること。

●スペイン語上級

スペイン語上級は、自由選択である。

2 「中国語」について

みなさんが外国語の中から中国語を選択して学ぶ場合、漢字で書いてあるから何となく意味が分かるだろうと考える人が少なくありません。だが、残念ながらこれは誤解に基づくものです。

言葉というものは本来音によって伝えられるものです。そこで、中国語と日本語とを文字を抜きにして比べてみると、音の出し方も文法も全く異なるものだということが分かります。つまり、日本人、或いは日本語を母語とするものにとっては、中国語とはしっかりと勉強しなければ話すことも読むこともできない、あくまでも外国語なのです。

漢字愛好者にとってもう一つのショックは、発音練習にはローマ字を使わなければならないことです。しかもこのローマ字表記は欧米や日本のそれと異なった音で読まねばなりません。更に、中国語には同じ音が声の高さで意味が変わってしまうため、一つ一つの文字の声の高さも覚えなくてはなりません。多くの学生諸君がこの壁を突破できず、結局中国語を話すことができないまま終わってしまうのは本当に残念です。漢字という文字の知識は、言葉の基本である発音のハードルを越えたときに初めて役に立つということを忘れず勉強してください。

経済成長を続ける中国と日本の関係は今後もますます強まり、国内外で中国人とコミュニケーションを取る機会が増えます。みなさんが日本社会のみならず、国外においても活躍できる可能性を広げるために、豊富な授業内容を活かし、中国語をしっかりと修得することを願っています。

●中国語初級

授業の組み合わせ

初級にはAとB二つのクラスが用意してあります。Aの方は中国語を体系的に学ぶための文法の説明を中心にした授業で、Bの方はコミュニケーション能力の向上を目指したネイティブの教員による口頭練習を中心にした授業です。また、AとBそれぞれには番号がついていますが、番号が同一のものは教科書や授業の方針を予め打ち合わせ、進度も調整しています。従って、履修はAとBそれぞれから一つずつ、番号の同じものを選んで履修して下さい。原則として番号の異なる組み合わせでは履修はできません。

履修上の注意

クラスの人数が多い場合、抽選などで他のクラスへ移ってもらうことがあります。従って、履修を希望する時間帯の授業には、必ず一回目から出席して下さい。

●中国語中級

初級を修得した方はぜひ中級を受講し、着実に基礎を固め、実際のコミュニケーションの場で応用できる実力を身に付けましょう。中級のうち、AとCは内容のある中国語を理解できるようになるための講読が中心で、教材は現代中国を知ることのできる評論文や時事文、中国人の心に触れる文学作品やエッセイなどが使用されます。これに対し、BとDはネイティブによる発音の練習と会話が中心で、教材も会話体のものが使われます。自分の勉強したい内容に即して、自由に選んで下さい。但し、A～Dそれぞれからは一つずつしか選べません。

●中国語上級

中級を修得した方は上級を受講することによって、中国語の能力をさらに伸ばすことができます。上級は基本的にネイティブによる授業で、全てを中国語で行うものもあります。徹底した少人数教育で行われますので、この授業を一年間受講すればあなたの力は本物です。

3 「朝鮮語」について

朝鮮語（韓国語）は、日本にとって一番近い国の言葉です。昔から日本と朝鮮はきわめて親密な、しかしときにはかなり緊張した関係におかれたこともあります。いずれにせよ、隣国の言葉を学ぶということは、これからの時代を考えると非常に重要なことです。

特に最近、日本にとって韓国や朝鮮民主主義人民共和国はますます重要な存在になりつつあります。政治や経済だけでなく、文化や芸術の面においてもそうであります。授業では朝鮮語の文法と会話だけでなく韓国・朝鮮の歴史、文化などについてもできるだけ触れるようにしています。

●朝鮮語初級

朝鮮語がまったくはじめての人を対象に、朝鮮語の文字と発音から授業を進めます。朝鮮語の文構造は日本語と非常に似ているので、日本語を母語とする学習者にとっては、習得しやすい外国語の一つです。

授業では語学の他に、韓国・朝鮮の歴史や文化もさることながら最近話題になっている映画や若者の関心事なども取り上げます。1年間の授業で朝鮮語の読み書きと基本文型が身につくようにしています。

A I・A IIでは韓国語の基本的な文法を中心に授業を行い、B I・B IIでは韓国ですぐ使える実用的な会話の練習を中心にコミュニケーション能力の養成をはかりますので、A、Bをワンセットで履修してください。

●朝鮮語中級

朝鮮語初級を履修した人を対象とします。朝鮮語の能力を一層高めるため、文法と会話を中心とした4種類のクラスが設けられています。テキストを中心に日常でよく使う語彙、表現を多く覚えさせます。会話能力の向上のため、実際の場面を想定した練習も行います。韓国・朝鮮を知る上で必要な歴史的出来事、人物、最近の日韓関係などにも目を向けます。さらに、ハングル能力検定試験（4級）のサポートもしています。合格し申請すると、2単位が修得できます。同一年度に複数の授業を履修することができます。

●朝鮮語上級

朝鮮語の中級程度の学習を終えた人を対象とします。朝鮮語と日本語の類似点と相違点にも注目しながら、より体系的に学習します。韓国・朝鮮の人々のものの見方と関係のある表現、ことわざなども取り上げ、その特徴について話し合います。ドラマや映画を通して韓国・朝鮮の冠婚葬祭、風習、習慣などにも触れ、韓国・朝鮮に対する理解を深めます。ハングル能力検定試験（3級）のサポートもしています。合格し申請すると、4単位が修得できます。同一年度に複数の授業を履修することができます。

4 「ドイツ語」について

ドイツ語はたんにドイツ一国だけの言葉ではなくて、ドイツの他にも、オーストリア、スイス等でも使用されており、さらに、いわゆる中欧、東欧の近隣の国々でもよく通用している言葉です。その使用人口はほぼ1億人と言われています。従来ドイツは、どちらかと言えば哲学、音楽、文学、自然科学などの国であるというイメージが強かったのですが、工業の発達した経済先進国であり、EU（ヨーロッパ連合）の経済を支え、アメリカや日本とともに経済大国でもあります。そしてその経済力と地理的位置から、ヨーロッパの諸国に与える影響も大きく、名実ともにEUのリーダー的存在でもあります。

ドイツおよびオーストリア、スイス等の「ドイツ語文化圏」の政治、経済、社会、歴史、文化等を理解しようとするためには、ドイツ語の習得がどうしても必要です。逆に言うと、ドイツ語の習得によって、みなさんが専門として学修している、大学での専攻分野（法学、経済学、工学他）をさらに深く探究できるチャンスが広がるのです。ドイツ語文化圏においてこれまで研究され蓄積された膨大な知識のデータベースへのアクセスは、ドイツ語を第二外国語として選択されたみなさんにしか与えられません。大学生として自分自身の専門分野にしっかりと向き合い、向上させたい気持ちのある人には強くドイツ語をおすすめします。

また、ドイツ語の学習をより発展させていくために、長期・短期留学は大きな意味を持ちます。ヨーロッパで最も理想的な留学先はドイツです。その理由は、もちろんドイツの大学の質の高さにあるわけですが、その他に、他国の留学費用と比較すると、学費が破格に安いということもあまり知られていないことかもしれません。本学ではドイツへの長期・短期の留学制度が充実しています。また夏季休暇や春期休暇を使って、本学が指定しているドイツの大学主催の語学講座に参加することで、単位認定される制度もありますので、ぜひ活用してください。

●ドイツ語初級

週2回の授業のうち、1回はAⅠ、AⅡ（文法中心）、もう1回はBⅠ、BⅡ（コミュニケーション中心）を行います。AⅠ、AⅡでは、入門から始まり、一応平易なものが理解できるための最低限度の文法知識を学び、BⅠ、BⅡでは、コミュニケーションを成立させるためのドイツ語の表現をさまざま学びます。履修希望者は、自分の出席可能なクラスを選んで受講して下さい。なお、相談および質問のある者は、専任教員に相談すること。（17号館313号室 小松原、17号館312号室 ブッヘンベルゲル）

※ドイツ語初級AⅠ、AⅡ（文法中心）全クラスで統一教科書を使用します。

※ドイツ語初級BⅠ、BⅡ（コミュニケーション中心）全クラスで統一教科書を使用します。

●ドイツ語中級

初級で学んだドイツ語の知識を土台としてさらにドイツ語能力を発展させます。そのために各担当者によってさまざまな教材を用いた多様な内容のクラスが設けられています。ドイツ語の力を磨きながら、ドイツの文化、歴史、社会等に親しみ、ドイツを身近なものとして捉えられるようにします。

なお、AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡはドイツ人講師によってコミュニケーション・ドイツ語を主体とした授業が行われますので、必要な学生はぜひ受講して下さい。

●ドイツ語上級

ドイツ語能力にいっそう磨きをかけながら、ドイツの文化や歴史、政治・経済、社会事情等について、深く切り込んだ授業が行われます。このクラスの修了者が近年続けてドイツに留学しています。ドイツ語に興味を持つ人、ドイツについて知りたい人、将来ドイツで学びたい人等の積極的な参加を期待します。

●ドイツ語検定及びゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定について

本学ではドイツ語技能検定（財団法人ドイツ語学文学振興会主催）4級以上の合格者に対して、外国語科目の卒業要件単位として、2単位以上を認定しています。また、グローバルな資格試験であるゲーテ・インスティテュート・ドイツ語検定は東京ドイツ文化センター（東京青山）で開催されており、初級・中級を修了したみなさんで、特にドイツ語圏への留学を希望している人は、こちらの試験にもぜひトライしてみてください。

5 「フランス語」について

フランス語は私たちの生活の中にけっこう入りこんでいる言語です。料理やお菓子の名前（ガトー・ショコラ＝チョコ・ケーキ）や、ファッション、芸術を語る言葉もフランス語由来のものが少なくありません。あなたが今借りているアパートの名前にも、「メゾン（家）」や「ファミリー（家族。本当はファミーユと発音します）」といったフランス語が使われているかもしれませんね。

フランス語は発音の美しい言語というイメージもあるでしょう。ただそのぶん発音をマスターするのが難しそう…と心配してしまうかもしれません。確かに覚えなければいけないルールは多いですが、一回マスターしてしまえばむしろ英語よりも簡単だと思います。フランス語は英語に比べて例外がとても少ない言語で、理屈好きな人（？）にはぴったりの言語と言えるでしょう。

また英語とほとんど同じ単語もよく出てきます。それはフランス語が英語の影響を受けたからではなくて、逆に英語がフランス語の支配を受けたからなのです。例えば英語のbeefはフランス語のboeuf（ブッフ）という言葉から生まれた言葉ですが、beefが「牛肉」だけを表すのに、boeufは「牛肉」も、まだ生きている（？）「牛」も表すのです。どうしてそのような意味のズレが生じたのでしょうか？ まずは自分で考えてみましょう。

そしてフランス語には姉妹とも呼べる存在がいて、スペイン語やイタリア語がその代表です（なぜ兄弟ではなく姉妹なのでしょうか？ それはフランス語で「言語 langue」が女性名詞だからです）。ラテン語という共通の母をもつこれらの言語は互いに似ているところも多く、スペイン人とフランス人がお互いの言語で何とか意志疎通している姿を見かけることも少なくありません。

また言葉だけでなくフランスやフランス人に対して憧れを持つ人も少なくないでしょう。パリジャン・パリジェンヌ、流行の発信地、パティシエの修行の場、エッフェル塔やモン・サン＝ミシェルといった観光地…。確かにフランスは今も昔も世界中の人をひきつけてやまない魅力あふれる国であると思います。

しかしそのような目立つ部分だけでなく、フランスに生きる普通の人のライフスタイルや価値観にも注目する必要があります。現在のフランスは移民と共存する社会であり、葛藤を抱えつつ、とことんまで議論することで理想の

社会を模索している段階と言えます。このような「リアルな」フランスを見ていくことは、大げさではなく、これからの日本を考える上でも重要なのではないのでしょうか。

さらに言えば、フランス語を話すのはフランスだけではなく、ベルギーやスイスといったヨーロッパの地域だけではなく、カナダのケベック地方や、アフリカの多くの国がフランス語を使用しています（アフリカに人道支援に行く人の必須の言語とも言われています）。そこに植民地という過去を見るのと同時に、英語やスペイン語と同様に国際語となっているフランス語の多様な姿も確認できるでしょう。アフリカに興味があるからフランス語を勉強するという選択もよく見られるものです。

フランス語を通して、流行やブランドだけではなく、フランス人の独創的な価値観に触れること、そしてアメリカとはかなり異なるヨーロッパの考え方や、アフリカへの視点を獲得すること——、世界に対するもう一つの見方を、ぜひフランス語を勉強することで発見してみてください。

フランス語の授業は、前期と後期に分かれていますが、内容的にはつながりがあります。特に初級の段階では、前期の内容が理解できていないと後期の授業についていくのは難しいです。したがって、特に初級では、前期の単位をとってから後期の授業を履修するようにしてください。

2年次で中級の授業を履修しようとする場合には、初級AⅠ・AⅡを合わせて2単位とる、あるいは、初級BⅠ・BⅡを合わせて2単位とることが必要です。また、フランス語初級は、AとBで一組になっているので、AとBを合わせて受講することが望めます。なお、フランス語初級は外国語科目であり、国際文化交流学科の選択必修科目である入門フランス語とは異なるので、間違えないようにしてください。

●フランス語初級／Elementary French

初級フランス語のうち、AⅠ（前期）とAⅡ（後期）を「コミュニケーション（表現）」クラス、BⅠ（前期）とBⅡ（後期）を「コミュニケーション（理解）」クラスとします。

AⅠ、AⅡの表現クラスでは、学習者が実際にフランス語を話したり聞いたりする練習をします。日常会話の基本的な表現ができるようになることをめざします。

BⅠ、BⅡの理解クラスでは、コミュニケーションのために必要な文法知識を学び、フランス語で書かれたかんたんな文を読み、聞き取り、理解することができるようになることをめざします。

なお、実際に受講するにあたっては、週2回受講すること（前期にはAⅠとBⅠをそれぞれ1つずつ、後期にはAⅡとBⅡをそれぞれ1つずつ受講すること）が望ましい。

●フランス語中級／Intermediate French

中級には、A、B、C、Dがあります。2つ履修するためには、AとB、BとC、CとD、などのように、アルファベットの異なる科目を選択しなければなりません。

中級A：文法・講読を学びながら、フランス文化を理解する。

中級B：文法事項の復習を中心に、運用力を高めていく。

中級C：会話を中心とした授業を行う。

中級D：文法・講読を学びながら、フランスの文化や社会についての知識を深める。

●フランス語上級／Advanced French

初級、中級よりさらに進んだフランス語の運用能力を養うことをめざします。文学、思想、歴史、社会などに関するテキストを読んだり、複雑なことを伝える会話のトレーニングをしたり、フランス文化・社会をより高度なレベルにおいて理解することをめざします。フランス語の検定試験に合格したい人、留学を準備している人は必ず受講するようにしてください。

上級A：フランス文化や社会についての知識を深めながら、フランス語を読んだり、書いたりする力を養う。

上級B：フランス語検定試験準2～3級程度を受験するための学習を行う。

上級C：会話を中心とした授業を行う。

●フランス語技能検定試験について

本学では、フランス語技能検定試験（フランス語教育振興協会主催）の1級、準1級、2級、準2級、3級、4級の合格者に対して、外国語科目の卒業要件単位として、2単位以上を認定しています。フランス語を勉強する上での目標として、検定試験による客観的評価を得ておくことも一つの選択肢でしょう。

※ フランス語の履修について不明な点がある場合には、17-311室（熊谷研究室）、17-314室（西野研究室）まで相談

しに来てください。

6 「ロシア語」について

ヨーロッパの言語には三つの大きな言語群（ゲルマン・ロマンス・スラヴ）があり、ロシア語はそのうちのスラヴ系の言語の一つです。また、国連の公用語になっています。現在ではロシアばかりでなく、東中欧から中央アジアなどにまたがる国々の約3億の人々がロシア語を理解できると言われています。

日本との関係では、北方領土問題など政治上の問題があることから、あまり積極的な交流はないように見えるかもしれませんが、現在、ロシアの経済状況は完全に回復し、日本との経済交流は急速に進展しつつあります。また、文化や芸術などの面では、明治時代から強いつながりがありました。今でも、ピアノやバイオリンを始めとする音楽やバレエ、演劇など、ロシアの芸術は世界有数の水準にあります。また、日本文化に対する関心も高く、活発な交流が行われています。それ以外でも、ロシアは宇宙開発などの分野で、世界最高レベルの科学技術を持っています。

ロシアは中国や韓国と並んで日本の隣に位置しており、今後の経済発展も見込まれることから、将来は東アジアの重要なパートナーになるでしょう。すでに、サハリンや東シベリアでの石油開発が日本と共同で進行しつつあり、エネルギーや資源などの面では日本にとって重要な存在になってきています。

今の日本で外国語の学習と言えば、誰しも英語を一番に考えますが、同じヨーロッパ系の言語でも、少し系統の違う言葉を勉強してみると、普段の生活では気付くことのない新しい物の見方に出会うことができます。個性や多様性が時代のキーワードになりつつある現在ですから、普通の人がなかなか勉強できない言葉を学習してみるのも良い経験となるでしょう。

ロシア語の授業では、初級で独特のアルファベットの学習など基礎的な学習から入り、中級で基本的な文法内容などの基礎力を充実させ、上級で読解や作文などの運用力・応用力を養うことを目標とします。英語のアルファベットとは異なるキリル文字を使っているため、初級から上級までのステップを確実に踏んでいくことで、確かな語学力を身につけて下さい。

神奈川大学では、ロシアの国立アストラハン大学に交換留学生として派遣されるチャンスもあります。ぜひチャレンジして下さい。

履修についての質問や相談には各教員が随時応じますが、特に専任教員に相談がある場合、堤研究室（17号館410）を訪ねて下さい。

●ロシア語初級

初級では、はじめに文字と発音を学びます。その後、簡単な表現を中心として、文法の基礎を習得していきます。必要に応じて、音声教材やビデオ教材などを活用するほか、ロシアやロシア語が使われている地域についての解説も行い、生きたロシア語に親しめるようにしていきます。

授業はA・Bの週2回で、履修者各自がA・Bを1コマずつ選択して下さい。

●ロシア語中級

初級での基本的な知識を基にして、語学力の充実を目指します。実用的な表現を中心に学習しながら、辞書を使って文章の読解ができるように指導していきます。中級になると様々な文法事項が出てくるので、勉強は大変そうに見えます。しかし、ロシア語は体系的にできているので、着実にステップを踏むことで誰でも習得することができます。

授業は、教員ごとにA・B・C・Dの区別があります（2014年度はC・Dは休講です）。

●ロシア語上級

初級・中級で学んだロシア語の基礎力をもとに、読解や会話など語学力を実際に運用する力の向上をはかっていきます。その際には、履修者の関心に応じて、実践的な指導を行います。この段階では、ロシアに関連するゼミナールや講義などをあわせて受講することで、より専門的な知識を深めていくこともできるので、積極的に活用して下さい。

また、ロシアへの留学や卒業後の進路などの参考となる情報については、担当教官に積極的に尋ねて下さい。本学からも、貿易やマスコミ、教育、旅行業などで活躍している卒業生が出ているので、いろいろな相談に応じることができると思います。